

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2692600030
法人名	社会福祉法人みつみ福祉会
事業所名	グループホーム とだ
所在地	〒620-0801 京都府福知山市字戸田小字宮ノ段82 (電話) 0773-20-1788

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年5月18日

【情報提供票より】(平成20年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋
	1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有(期間ヶ月/均等償却)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1380 円		

(4) 利用者の概要(2 月 22 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	5 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳	最低	76 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都ルネス病院 こんどう歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR福知山駅と綾部駅の間にある新築のグループホームであり、すぐ傍には同法人の保育園がある。法人は1961年から児童、障害、高齢等の福祉事業を展開してきており、認知症への事業の必要性を強く感じていた折、福知山市からの要請で開設となった。開設1年弱にして地域住民の理解と協力が得られており、子どもや近所の人など、人が訪れるホームが実現している。毎月家族交流会を実施しており、家族との良好な関係が築かれている。障害福祉の現場での経験が長い女性管理者は力をもっており、職員にリーダーシップを発揮し、利用者への適切な対応をしている。職員は協力してがんばっていこうという思いをもち、離職はない。開設まもないこともあり、利用者と職員との関係がまだ少し距離があるように感じられるが、今後共に生活をしていく者としての雰囲気がつくられていくものと期待できる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が第1回目の受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価受審にあたって、自己評価は非常勤職員もふくめて全職員で行っている。評価結果をサービスの改善につなげたいという意識が高い。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	要綱が策定されており、福知山市高齢福祉課職員、公民館館長、民生委員、家族等のメンバーにより、2カ月に1回開催され、議事録が残されている。地域の人からは利用者の活動のためにと畑を幹旋してもらったり、地域の行事へのお誘いをいただいている。家族からは幼児との交流の希望や生活の状況を知りたいなどの積極的な意見が出されるなど、運営推進会議の機能が果たされている。メンバーに利用者も入ることができればと期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	法人として第三者委員を設置しており、毎月の家族交流会では意見を話しやすいように工夫をしている。職員の名前がわからないという意見により、名札を下げるようにするなど、意見により改善をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設にあたり、説明会を開催しており、地域住民の反対はなく、オープン時の見学会には300人が訪れており、地域のニーズの高さと歓迎されていることを感じている。消防署や警察には理解を求めている。中学生のボランティアや小学生の見学、保育園との交流を行っている。地域の行事には参加しており、近所の住民が野菜を届けてくれたり、遊びにきてくれたりする。広報誌『一期一会』は町内会にも配布している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「共生」であり、大切にすることとして「気配りと、目配り、そして心配り」が掲げられており、グループホームのパンフレットに大きく明記されている。開設1年弱であり、今後職員の話し合いにより、グループホーム独自の理念が策定されることが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念は職員会議等において常に振り返りが行われている。また、職員は「目標管理シート」により、一人ひとりの業務の振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設にあたり、説明会を開催しており、地域住民の反対はなく、オープン時の見学会には300人が訪れており、地域のニーズの高さと歓迎されていると感じている。消防署や警察には理解を求めている。中学生のボランティアや小学生の見学、保育園との交流を行っている。地域の行事には参加しており、近所の住民が野菜を届けてくれたり、遊びにきてくれたりする。広報誌『一期一会』は町内会にも配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価受審にあたって、自己評価は非常勤職員もふくめて全職員で行っている。評価結果をサービスの改善につなげたいという意識が高い。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱が策定されており、福知山市高齢福祉課職員、公民館館長、民生委員、家族等のメンバーにより、2カ月に1回開催され、議事録が残されている。地域の人からは利用者の活動のためにと畑を斡旋してもらったり、地域の行事へのお誘いをいただいている。家族からは幼児との交流の希望や生活の状況を知りたいなどの積極的な意見が出されるなど、運営推進会議の機能が果たされている。メンバーに利用者も入ることができればと期待される。		

京都府：グループホームとだ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での連携の他、日常的には市の担当者に相談などを行っている。	○	市との共催で、地域住民への介護相談や認知症理解のための教室の開催が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とは毎月交流会を開催しており、食事会をかねた場合は全家族の参加があり、茶話会のときにも2、3家族は訪問される。その際に情報交換をしている。また広報誌『一期一会』には職員紹介がある。金銭管理はノートと領収書で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として第三者委員を設置しており、毎月の家族交流会では意見を話しやすいように工夫をしている。職員の名前がわからないという意見により、名札を下げるようにするなど、意見により改善をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として、グループホームの職員はなるべく異動させないようにしたいという思いはあるが、事業展開のなかではいたしかたのない面もあると認識している。職員の離職を防ぐ工夫としては、休みの希望やシフトのやりくりなどの他、管理者はなるべく一人ひとりの職員の話をもじっくり聞くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画に人材育成が挙げられており、内外の研修計画が策定されている。新人職員研修、中堅職員研修があり、認知症および認知症ケア、レクリエーション、高齢者の心理、防災訓練等のテーマが含まれている。職員の資格取得にも助成金、資格手当等で支援されている。一人ひとりの職員の課題は「目標管理シート」により、管理者との話し合いを行い、設定されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設にあたっては、「グループホームたのやま」に職員実習を受け入れてもらった。福知山市内にはグループホームが4事業所あるが、ネットワークをつくり交流するにはいたっていない。	○	職員にとっては他のグループホームとの交流は業務の振り返りになり、またストレス解消にもなるので、職員や利用者レベルでの、他のグループホームとの日常的なフランクな交流を積極的に行うことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族には利用開始前に見学に来てもらい、他の利用者の様子やホーム内の雰囲気をつかんでもらっている。利用されてからも、なるべく早くなじんでもらうために、家族にはできれば毎日でも来訪してもらうなどの協力をお願いしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の作業はもっぱら利用者から教えてもらっている。また地域の昔の生活習慣、食習慣なども、職員は知らないことが多く、利用者との会話が弾んでいる。利用者が思い出しながら話すことは良い話が多く、逆に胸をつまらせて聞くことが多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込があると、家族構成や生活状況、ADLなどの情報や利用していた医療機関や介護サービスの情報を収集している。生活歴や趣味・嗜好の情報は少なく、本人や家族の希望の聴取も少ない。	○	利用者本人や家族は、利用にあたって希望を述べることは少ないと思われるので、利用者の長い人生の生活歴や生きがい、趣味・嗜好などをなるべく多く聞き出し、そのなかから意向を把握することが求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメントをもとに、利用者の思いを反映した介護計画を作成したいという意図のもと、介護計画が作成されている。畑作業は無理でも草ひきはできるなど、生活の楽しみも含めたプラス志向の介護計画が作成され、サービス内容は具体的で詳しいものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の業務は介護職員会議が随時開催され、そこで検討されている。ケース会議は月1回行われ、利用者の状況と対応が検討されている。介護計画の見直しは状態変化があったときと、半年に1回行っている。介護計画実施確認表が記録されているが、実施しての結果や実施できなかった理由などの記載がない。モニタリングが毎月行われているが、その根拠となるケース記録が介護計画にそった内容ではない。	○	介護計画の見直しにあたっては介護計画の評価が必要であり、そのために介護計画にそった内容のケース記録に基づいたモニタリングが実施されることと、新たなアセスメントが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診同行や理美容院への同行は、原則家族にお願いしているが、事情により求められれば、同行に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がかかりつけ医に家族と受診する場合、事業所としての情報をサマリーで出したり、また医師からのサマリーも入手している。歯科医や認知症専門医については、現在のところ、利用者のかかりつけ医と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族はいつまでこのホームにいられるのかという不安な思いを述べている。管理者としては最期まで看たいという思いはあるが、職員間の話し合いはまだしていない。協力病院の協力は得られており、また看護師が職員配置されているので、24時間のオンコールはできている。重度化にたいする当ホームとしての方針はまだ決まっていない。	○	職員との十分な話し合いにより、ホームとしての重度化にたいする方針を決めること、利用者本人や家族との最期の迎え方を話し合うことが求められる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	業務の場面でのプライバシーの配慮に十分注意している。利用者の居室は鍵をかけることができる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は6時から8時くらいに、また夕食後8時には寝る人もいるが、11時くらいまでテレビを見ている人もいるなど、暮らし方は利用者の自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は綾部の町まで出かけており、買い物時に利用者が「これが食べたい」などと言うこともあり、冷蔵庫にあるものとともに、その日の献立に反映される。誕生日にはその人の好きなものが食卓にのぼる。鍋料理も冬場は何度もあり、外食は行事としておこなっている。ぜんざい、ホットケーキ、クッキー、クレープ、ドーナツ等のおやつづくりもさかんである。職員もともに食事しながらの食卓では活発な会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴ぎらいの人でも週2回を支援しており、毎日入りたい人は対応している。マンツーマンの同性介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、草ひき、調理手伝い、配膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけなどの役割が果たされている。楽しみとしては毎日の散歩、買い物、貼り絵、雛人形づくりなどに取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や散歩のほか、花見やもみじ狩りの遠出、地域の納涼大会や文化祭などの行事に出かけたりしている。昔グンゼの工場に住み込みで働いていた人を昔の職場に個別外出で同行して、思い出話を聞くなどしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関だけではなく、勝手口、非常口など、鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画は作成され、消火器、通報機、感知器、スプリンクラー等が設置されているが、防火管理者はまだ設置されていない。毎月避難訓練は行われているが、夜間想定避難訓練はまだ実施されていない。備蓄は準備されていない。	○	夜間想定避難訓練を実施し、防火管理者を設定すること、備蓄の準備、地域との協力体制の確立等が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量の記録はあるが、水分摂取量は把握されていない。献立のカロリー値や栄養バランスについて、法人の管理栄養士に点検してもらっているが、記録はない。	○	高齢者の水分不足は体調管理に重要なので、水分摂取量の把握と、毎日の献立のカロリー値ならびに栄養バランスについて1か月に1回くらい、管理栄養士からのコメントを記録に残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建ての和風建築である。玄関に親しみやすい表札がかけられ、たくさんのプランターに花が咲いている。居間兼食堂には6畳の量コーナーがあり、堀コタツになっており、利用者がつくった雛人形が飾られ、新聞や雑誌や洗濯物があり、家庭的である。居間の全面ガラス窓の窓際に絨毯を敷き、ソファがおかれ、寛ぎの空間となっている。壁際の本棚には雑誌、昭和初期の福知山市内の写真集、DVDなどが立てかけられている。廊下の壁などにはもう少しいろいろな飾りがあってもいいと思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は3室までしか並ばないようにうまくデザインされおり、認知症への配慮が行き届いている。居室内にはたんす、衣装ケース、椅子、仏壇、テレビ、時計等、利用者が使い慣れたものが持ち込まれ、人形、ぬいぐるみ、家族や自分の写真、本人作成の作品等が飾られている。		